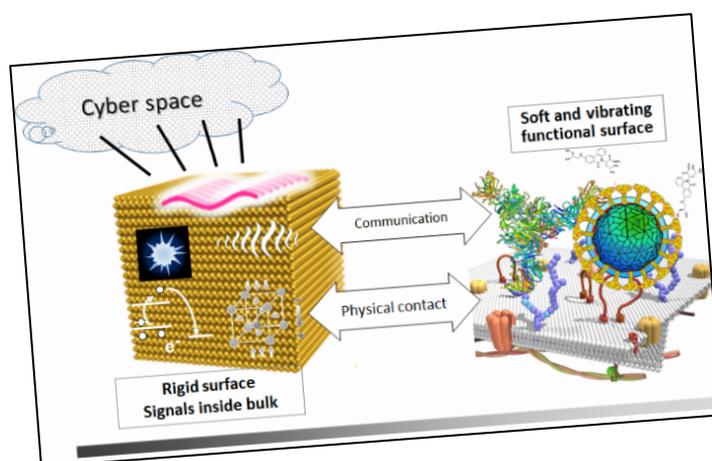


シンポジウム T-16
「固体表面とバイオ表面の共生：
サイバー空間と生体の対話へむけて」
~如何にサイバー空間と生体をシームレスに繋ぐか~
Symbiosis of solid surface and bio surface:
Toward a seamless dialogue between cyberspace and organisms

デジタル空間の驚異的發展をベースに、生体とサイバー空間が一体化する近未来では生体・細胞とデバイスが接合し、高度な信号交換・対話が求められる。そこではサイバー空間のエッジ、デバイスと生体・細胞の共生が必須である。

「強い近距離力が支配して信号が作られる」デバイス表面と、「分子が時々刻々揺れ動いて機能を実現する」生体・細胞表面の共生をどう実現するかを議論する。



招待講演者

山下一郎 (大阪大学)	サイバー空間と実世界を繋ぐ
梅津光央 (東北大学)	対話をつなぐアプタマー
吉野知子 (東京農工大)	細胞を捕まえ対話する
Jeremy Tame (横浜市立大)	タンパク超分子構造の作製とアプタマーの可能性
早水裕平 (東京工業大)	タンパク質で直接半導体の電子状態を変える
雲林院宏 (北海道大学)	細胞の中の分子をとらえ光で観察
鵜澤尊規 (理化学研究所)	非天然アミノ酸を含むアプタマーを作る
松崎典弥 (大阪大学)	チップの上で細胞をくみ上げる
加地範匡 (九州大学)	細胞をハンドリングするチップ
金蔵孝介 (東京医科大学)	デバイスに期待する医学

*** 本シンポジウムでは一般講演も募集しております**

問合せ先：yamashita@pmdp.arl.eng.osaka-u.ac.jp, 代表世話人：山下一郎 (阪大)